

奄美大島の歴史

アジア大陸の沖合かつ日本本土と沖縄の間という地理的位置を占める奄美大島は、複雑な歴史を持っています。強力な近隣地域に囲まれながらも、この島は異文化からの影響と異文化との共通点を組み合わせた独自の文化を発展させました。

古代の年代記には、奄美大島が 7 世紀から 8 世紀にかけて近くの九州に貢物を納めていたことが記されていますが、この習慣は後年にはなくなったようです。15 世紀になると、奄美大島は沖縄に権力を集中させていた琉球王国の統治下に置られました。島の集落はノロと呼ばれる女性祭司を利用した行政システムを通じて管理されていたものの、奄美大島は概ね自治を保っていました。琉球王国はアジア大陸との交易や文化交流が盛んだったため、中国からの影響は、奄美大島や琉球王国に属する他の島々にも及びました。

北方からの侵略

1609 年、日本の主要島のうち南に位置する九州から薩摩藩が琉球王国に侵攻し、奄美群島は薩摩に割譲されました。表面上は、奄美大島は依然琉球王国の一部であり、島民は伝統的な社会構造の大部分を維持することができましたが、政治的・行政的な権限のほとんどは薩摩藩が握っていました。経済的には、奄美大島は植民地として扱われ、島の人々は稲作をやめて九州を拠点とする薩摩藩にとってより収益性の高いサトウキビの生産に専念することを強いられました。島民は食料や他の必要な物資と引き換えに砂糖で税を納めることを強制され、2 世紀以上にわたって島の人々のほとんどが苦しい生活を送りました。

日本の国の一部

この植民地支配は、1879 年に明治政府が奄美群島を国土に編入し、奄美の島々が正式に日本の一部となるまで続きました。

第二次世界大戦中、奄美大島は連合国による空襲を受け、島最大の都市であった名瀬市（現在の奄美市）の大部分が破壊されました。日本の敗戦後、連合国の占領政策により、奄美群島、沖縄、南西諸島は日本から分離され、米軍の直接統治下に置られました。島の活動家たちによる熱心な本土復帰運動の結果、奄美大島は 1953 年に日本に返還され、この島の他国に干渉されつづけた数百年の歴史によりやく終止符が打たれました。

今日、奄美大島は鹿児島県の一部であり、その複雑な歴史や融合的な文化、素晴らしい自然に関心のある人々を歓迎しています。